

新作の構想

昨年、2015年12月16日 FOMCの結果を待ちながら、1冊の電子書籍を書きあげた。大胆にも、出版社の手を一切借りず、相場分析と予想だけで本の形に仕上げたのだが、予想以上に大きな反響を読者からいただいた。やがて、半年もたたないうちに、予想は現実のものとなった。

全体として2016年はしっぺ返しの年になると予想し、相場は、リスクオフが行き着くところまで行く展開を組み立てた。ドル円は106円台に突入し、日本株は16000円を割れると予想した。ユーロが反転すれば、やがて原油価格が反転することになるとも予想した。

日欧の量的緩和政策は、米国のそれとは本質的に異なり、単なる通貨安政策であり、それは昔から問題視されてきた近隣窮乏化政策（自分の国の通貨を安くすることでライバルである隣の国の経済に悪影響を与えてやろうという政策）のニューバージョンにすぎない、と分析した。そして、通貨安政策が誰のためにもならず、むしろ大きな代償を払うことを、何よりも2016年のマーケット自身が教えてくれることになるだろう、と予言めいたことまで書いた。

書き終えたところで、また違う新しい何かが見えてきたが、その時はまだぼんやりとしていた。しかし今ははっきりと見えている。相場はここから大きな分かれ道に向かうだろう。そのことを書くのが次の本である。

また前作では見えていなかったものも見えてきた。日銀のマイナス金利導入である。これがもたらす闇を明るみに照らすのも、次の本の仕事である。

前回同様、出版のタイミングはしかるべきところと考えている。今回の場合は7月10日、参院選の投開票日と照準を絞った。政府・日銀が方向転換を余儀なくされるのは、ここであろうと考えているからだ。